

年会費納入手段としてのPayPay導入の件

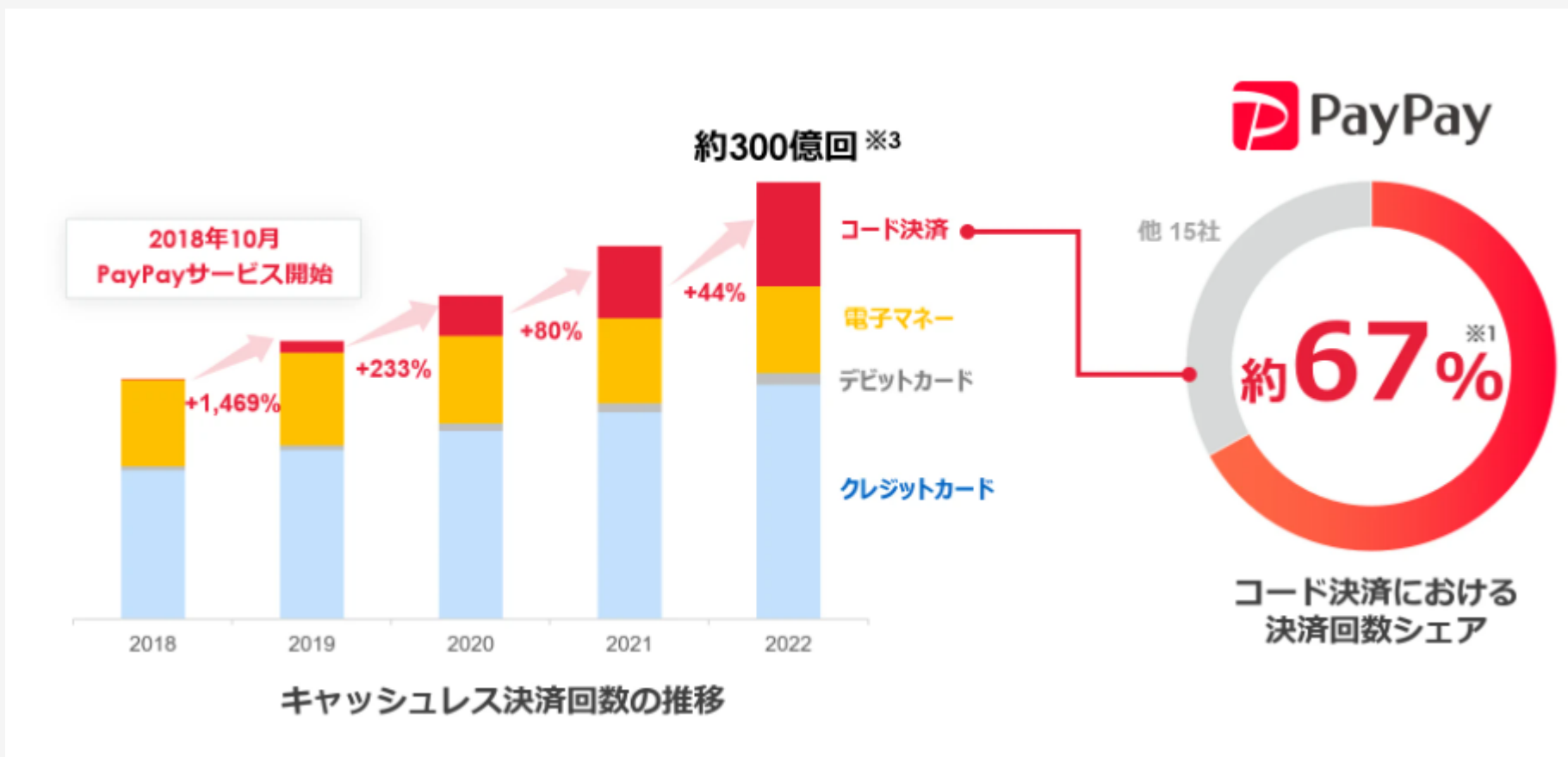
～年会費納入率向上施策～

2024年4月27日

剣友会副事務局長 生方 照胤（H5卒）

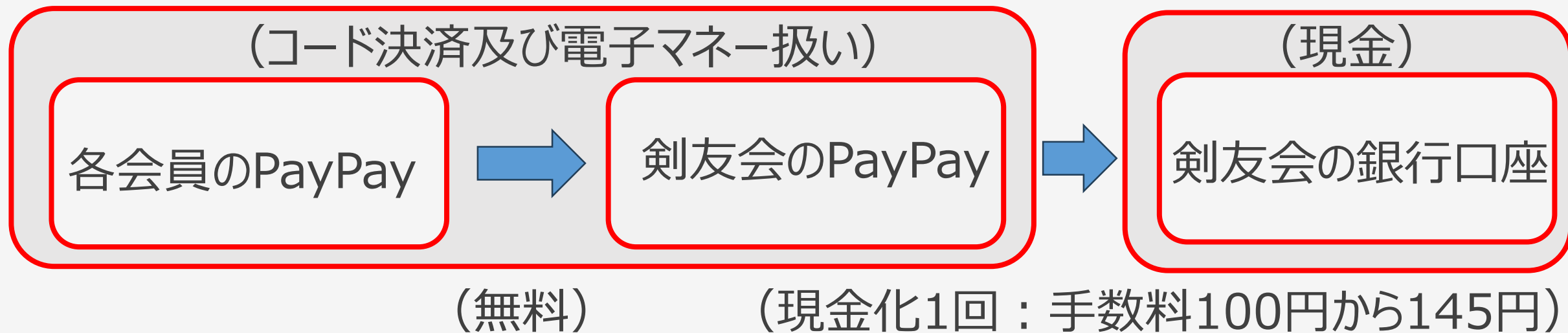
目的

年会費納入率向上のため、コード決済及び電子マネーで年会費が受領出来るよう納入手段（PayPay）を増やす



仕組み

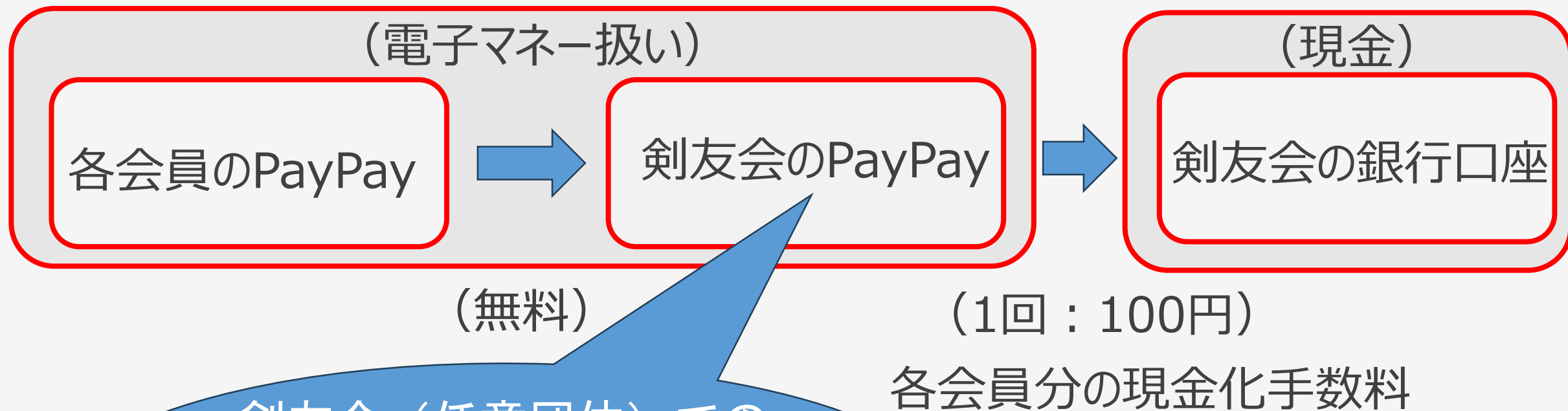
<フロー図>



- 1 各会員の送金手数料無料
- 2 24時間スマートフォンで完結
- 3 管理低コスト

問題点

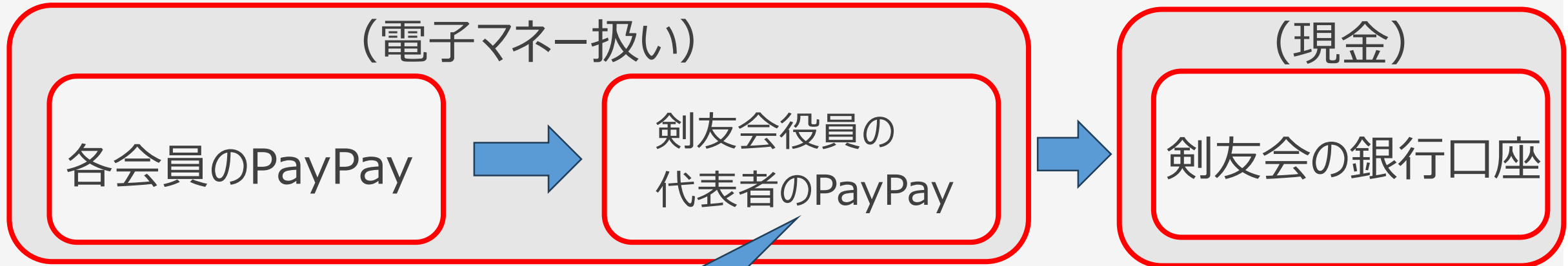
便利なツールであるが課題あり



剣友会（任意団体）での
PayPayアカウント作成は
不可
(商取引ではないため)

代替案

便利なツールであるため利用するためには



各会員のPayPay

剣友会役員の
代表者のPayPay

剣友会の銀行口座

(無料)

(1回：145円)

各会員分の送金手数料無料

年間コスト見積もり

145円×12ヶ月 = 1,740円

剣友会役員の代表
アカウント

代替案

<リスク>

- ・代表者（例：生方）のPayPayアカウントのため、横領の不正リスクあり
⇒性善説で手続き * 慶應大学では会費横領事件も過去発生

<事務負担>

- ・代表者（例：生方）のPayPayアカウントから、現金化して剣友会の口座へ送金手続き（月次決算に合わせて月締め）の負担あり

<引継ぎ負担>

- ・PayPayの窓口担当者曰わく、団体口座も将来作れる可能性あり
しかし、それはこの先不明のため、来年の引継ぎ時には新代表者個人へのアカウントを利用させてもらう必要がある

方針

<導入>

- ・年会費納入強化のためデジタル世代である20代、30代をターゲットとした策として試験的にPayPayを導入し、利便性を向上させ納入率を上げる
- ・また、導入後納入状況をモニタリングし、1年後も継続するかの状況判断を行う

<導入に対しての補足事項>

- ・剣友会のアカウントではないため、会員への年会費支払い通知書には個人のアカウントであるが、剣友会の会費入金先のアカウントと見做す旨を謳うこととする
- ・運営にあたっては、会計担当に定期的にエビデンスを提出し、適切に管理されていることを確認する